

好きなことを
仕事にする人の
エネルギーと時空間の
関係とは？

Junko Komiya-Baker

自分の「好き」を仕事にするときの、時間とエネルギーの使い方とは？その1

さて、では、これから2時間の間、私の『好き』を仕事にするために、書いていきます。

私は科学者ではありませんが、時間とエネルギーについて、そしてそれが発生する空間について、かなり、いつも考えています。

何を考えているかというと、人生という限られた時間の中で、どれだけやりたいことを実行できるのかということが基本で、そういった意味では、自分の時間を自分のため使えるようにするためには、どうすればよいかを、いつも考えているということです。

かつての私は、スーパーウーマンになりたい症候群だったと思います。

1970年代のヒッピー文化を超えた80年代には、主婦として、嫁として、妻として、娘として、母としての自分をこなしながら、舞台やTVの仕事、そしてレッスンを重ねていました。

この時期、2回の妊娠で2人の息子を産みましたが、妊娠していても、この役割と仕事は、すべてこなしていました。TVにも、妊婦の役で出演するなど、すべて無駄なく動いていたのです。

しかし、この「無駄のない生き方」をしていることに、疑問を感じる時がやって来ました。

その、トリガーとなったのは、太陽のフレアの極大のサイクルである11年サイクルの大きな切れ目が来たことでした。

自分の「好き」を仕事にするときの、時間とエネルギーの使い方とは？その2

今まで、疑問を持たず、スーパーウーマンのように生きていた私は、この太陽のサイクルの変化によって、全く異なる感覚の世界にいざなわれていきました。

今でいえば、それは「目覚め」とか「気づき」とか、大げさにいえば、「覚醒」ということになると思いますが、現実生活の中で究極、できる限りのことをしていたら、いきなり、向こうの世界に通り抜ける扉が開いてしまった……。そんな感覚です。

いろいろなことが起きてきましたが、人間関係の終焉が、まず感じられてきました。

今まで、普通につきあっていた人たちの言動が、しっくりこなくなるのです。感覚的には「それは、もういや……。」「それって…どう？」こんな疑問が、いつも頭の中に持ちあがってくるので、お付き合いも即答ができなくなっていく。ついには、いただいた役のセリフも、疑問符だらけで、覚えられないどころか、必死に覚えても、演じられない。なぜなら、そこには「意味の不在」を感じてしまっていたからです。

人には言えない苦勞をしたり、努力をしてきて、やっと俳優としての道を歩き始めることができたのに、たどり着いたところは「意味の不在」では、目が点です。

つまり、ここまでは、すごいエネルギーと時間の凝縮をしながら、女性に与えられた役割を自分なりにこなしながら、人生前半のメニューを消化したということ？ 本当にそう？

自分の「好き」を仕事にするときの、時間とエネルギーの使い方とは？その3

生まれた家の環境や、そこで与えられたこと、そこで観たこと聞いたこと、学んだことを自分なりに編集した結果の人生のキャリアムが、あっという間に終わってしまった感じです。

さて、そこで私が考えたのは、時間の使い方をここから変えていかないといけないな・・・ということでした。

今までの世界は、なぜかわからないけれど、もう終わってしまった。

エネルギーのある方向はどちらかみてみよう。

エネルギーが動いていく方向は、まっすぐ、未来の方向で、過去ではない。

過去に戻ることはできるのか？ともう一度考えてみよう。

過去の自分の世界を構成していた人たちはそろっているだろうか？いや、ずいぶん欠けている。

別れた夫や、友人だけでなく、すでに他界している人たちもかなりいるではないか・・・。

過去の自分の世界と同じ構成員の中で生きることはできないことが判明する。

では、似かよった人たちで、その欠員を埋めれば、過去と同じよう構成員の中で、過去と同じような自分を生きられるのではないかな？

それは、考えられる。もっと、自分に合った人たちに構成員が置き換えられれば、できるはずだ。

いや、一番大切なものが、しかし、そこにはない。その大切なものとは・・・？

自分の「好き」を仕事にするときの、時間とエネルギーの使い方とは？その4

過去の方にエネルギーを傾けていけない、一番の理由、一番大切なものは何か？

それが、「意味」でした。過去に帰る意味があるかどうかということです。

過去に帰るためには、今、生まれて育っている子供たちをお腹の中に戻さなければならないほどの不可思議なことが必然となるのです。

そんなこと、わかっているはずでしょう？と、笑い飛ばす人は、もしかしたら過去には帰れないということを真剣に考えたことがないかもしれません。

そして、過去に居続けようとするために、「停滞」しているかもしれません。

「以前はね・・・」「前だったら・・・」と、過去と比較する言葉を使うことが多い人は、エネルギーの停滞の傾向があることに気づいていないことが多いのです。

過去は記憶で、幻想ですが、エネルギーの流れを考えると、今、ここから過去に想いを馳せるだけで、かなりのエネルギーの停滞を起こすことに気づかず、いつまでも過去を抱きしめているかもしれないのです。

あなたは、どうですか？

さて、そのエネルギーが動いていく方向を見たとき、時間と空間がどのように変化しているのかということを更に感じてみると、こんなことが解って来ました。

自分の「好き」を仕事にするときの、時間とエネルギーの使い方とは？その5

エネルギーは、水のようなもので、ほっておくと、多方に流れて、広がって行きます。

興味のあるものすべてを、自分の「好き」として、そのすべてにエネルギーを注ぎこもうとすると、それは、それなりに、すべての方向にエネルギーが流れ込んでいくのですが、そうすると、そこに多重の時空間ができあがっていくことがわかります。

具体的に言えば、クリスタルな好きな私の時空間は、それを基本とした動きの時空を形成していくので、将来の私はクリスタルショップのオーナーのような姿で登場します。

書くことの好きな私は、こんな本も、あんな本も読みたいし、そのためには、いろんなところを旅したい、いろんな勉強がしたい…。そんな私の将来は、文筆家としての姿で登場します。

教えるのが好きで、自分のコンテンツをまとめて、人に伝えて行きたいという私の将来には、セミナーなどの講師をやっている姿として登場します。

ヒーリングが好きな私は、それをやっている姿の将来の自分…。

そのすべてが、可能性に満ちた将来の像をみせてくれるのですが、そのすべての時空間を感じると、こんな自分、あんな自分、そんな自分に分かれていることも感じられます。

ビリー ミリガンという多重人格の人の話が、話題になった時代がありました。

また、いろんなことができるマルチな人が流行った時代もありました。でも、どうなのでしょう？

自分の「好き」を仕事にするときの、時間とエネルギーの使い方とは？その6

私がここで発見したのは、あれもこれも完璧にこなしていきたいスーパーウーマンの思考の雛型です。せっかく、「目覚め」の時がやってきたのに、このエネルギーと時空感覚では、埒があきません。過去に戻る意味がないと言いながら、結果的には、過去と同じ雛型に戻ってしまうのです。

多重な方向へと流れていく癖をもっているエネルギーを一つに集約させるとどうなるのでしょうか？それは、よく言われているように、「集中する」ということなのでしょうか？

それは「集中力」を要することなのでしょうか？

…。

そう考えると、再び、意味の不在にぶちあたります。なぜかと言えば、それではあまりに「つまらない」のです。集中しなければできないことをするというに意味の不在を感じ、つまらないから集中できないという結果をすで感じているのであれば、ひとつに集約することなど、本当に意味がないのです。

しかし、多くの人は、集中力さえあれば、何らかの達成に至ると思って日夜努力をしているようにみえます。

さあ、いったいどうしたらいいのでしょうか？

自分の「好き」を仕事にするときの、時間とエネルギーの使い方とは？その7

あなたの『好き』を仕事にしていくとき、一番大切なのは、夢中になることです。

夢中になれることをやっている時、他の可能性の多重時空間は、あなたを邪魔しないのです。

夢中になっている時間に、エネルギーはどんどん流れ込んで行きます。

そして、分割された興味の多重空間ではなく、夢中になっている『好き』なこと、そのものが多重な時空間を創造しはじめます。

ひとつの夢中が臨界点に達すると、次の夢中が自動的に扉を開く。

その多重な時空創造の邪魔を『あなた』がしなければ、ひとつにエネルギーが集中して流れ込んでいくと、幾恵にも重なったバラの花びらが開いていくように、どんどん可能性が開いていくのです。

その邪魔をするのは、『あなた』の思考です。

この創造的な状況の中で、足を休めたり、箸を休めたり、手を休めたりしなければならないと思う「一般的な考え」が、邪魔をしにきます。

急に道徳的になって、「夢中になっていて、朝まで起きていたのはいけませんね。」

「夢中になっていて、食事をするのも忘れていました。これでは健康によくありません。」

など、道徳的な良い子であろうとする、一般的な考えが、邪魔をするのです。

自分の「好き」を仕事にするときの、時間とエネルギーの使い方とは？ その8

こうでなければならないという考えが、もちあがってきたら、しなければならないことではなく、その瞬間にしたいことをしてみてください。

瞬間的に、あなたは、甘いものが欲しくなったとします。そこで、あなたはどんな選択をするでしょう？ 飴をなめようと思うけれど、甘いものは体によくないので我慢しようと思いませんか？

その我慢は、あなたのエネルギーを停滞させないかどうかを見てください。

別のことで、自分をごまかしておきますか？

そうすると、エネルギーはどうなりますか？

一般的に言われている「良いこと」を基準にした「思考の紋切型」が、あなたの中で作動していないでしょうか？

どこかで読んだ本や、人が言った言葉を鵜呑みにして、紋切型化した思考に傾倒し、自身のエネルギーの方向や量を感じず、自分の感性に不誠実になってしまうということはありませんか？

自分の感性に誠実になることを、「わがまま」ととらえたり、抑圧してしまう癖はありませんか？

停滞とは、エネルギーが順当な時間の流れの中に注入されていないために起こる、「漏れ」からくるものですが、その「漏れ」も、実は大変な力をもっているのです。

自分の「好き」を仕事にするときの、時間とエネルギーの使い方とは？その9

「漏れ」を表す感覚で代表的なものは「心配」です。

あらゆる心配が、あなたのエネルギーの漏れをつくります。心配は停滞を起こすからです。

心配のために転ばぬ先の杖をつく、必ずエネルギーは漏れます。

あなたが「好き」を仕事にしていくよりも、生活のためには嫌でもしなければならない仕事という

転ばぬ先の杖をつく、あなたが自分自身に与えられる恩恵が、どんどん遠ざかってしまいます。

この「漏れ」のもっている力とは、一体何かと言えば、実は驚くような正体です。

もったいぶっていないで、それが何かを書きますが、それを聞くと、あなたは、少なからずともショックを受けてしまうかもしれないので、ジワジワとその正体に近づけるようにしています。

まさか！と、思うかもしれないので、太陽神経叢に手をあててショックを受けないように準備を

してから、次の文章を読んでください。

すべてのエネルギーの漏れ、

「貧乏」「病期」「失恋」「失業」「騙されること」「喪失」は、

中毒なのです。

知らず知らずの間に、このエネルギーの漏れから感じる「ハラハラ」する気分の中にいること、

「物悲しい気分」の中にあることが、中毒になってしまっている……。

自分の「好き」を仕事にするときの、時間とエネルギーの使い方とは？ その10

007が映画の中でよくやるように、危機一髪で危険を回避する醍醐味は、私たちの生活の中にも形を変えて存在しています。

救急車を呼ぶのが、あと1分遅かったら、命が危なかった。

1本後の電車に乗っていたら、飛行機に乗り遅れるところだった。

取引先からの振り込みと支払が、ほぼ同時に起こった。

もう、ダメ!と思った時に、仕事が入ってきた。

このような危機回避の経験は、誰にでもあることですが、危機一髪で回避できるまでに脳内からアドレナリンやノルアドレナリンが大量に噴出しているはずですよ。

このホルモンの噴出が、安心な結果によって一気に変化し、リラックスすると、また、この噴出を欲するようになります。ドキドキ、ハラハラがなければ、生きている感じがしなくなるのです。

どうして、ネガティブな状況で、このドキドキ、ハラハラを作り出してしまうのでしょうか？

ドキドキ、ハラハラ心配するよりも、ドキドキ、ワクワクしながら高揚感を感じる方向へ、クリエイティブな方向に意識を向けるように変化させないのはなぜでしょう？

そこが、「中毒」たる所以なのです。この中毒は、慣れた感情として、あなたにあなたが与えているものなのです。

自分の「好き」を仕事にするときの、時間とエネルギーの使い方とは？ その1 1

エネルギーの漏れによる、中毒は更にこんなところにも及んでいます。

それは「秘密」をもつことです。

「秘密」には魔力と言えるほどの、中毒の力があります。人は、秘密をもつと、自分を特別に感じるようになるのです。「あなたは、私のことを知っているようで、実は知らない……。なぜなら、私にはあなたには教えない秘密があるから。」仮面をかぶることで、自分をごまかしていく中毒の背後には、さらなる刺激があります。それは「でも、もしも、この秘密がばれたらどうしよう？」こんなハラハラ、ドキドキはありません。

人は、誰しも、人に言えない失敗や経験をもっているものですが、それはすべて、あなたの財産でこそあれ、汚点ではありません。

ただ、その失敗や経験が財産となる側面を見ることができずにいると、或いは見たくないの、見ないまま中毒する感情にしてしまっていると、秘密化していきます。

秘密は、あなたを分離させていくので、エネルギーが漏れるのです。漏れる口は、自分と分離している自分とのギャップ、亀裂、狭間です。

ドキドキ、ハラハラする感情の中毒から解放たれて、本当にドキドキする生活を想像して、その方向にエネルギーを一途に注入していくと、どうなるでしょう？

自分の「好き」を仕事にするときの、時間とエネルギーの使い方とは？その1 2

想像を広げているときは、多分楽しいと思いますが、想像していくそばから、邪魔な考えがどんどん浮かんでくるはずです。

あなたは、きっとその考えを、邪魔な考えではなく、常識的で道徳的で良心的な人間であれば誰でも考えなければならないことだと思うかもしれません。

無謀なことはするべきではない。準備はできているのか？資金はどうする？

ほら・・・。

慣れた心配がやってきていますよ。

今、するべきは、それを実現化するためには、いらない方向に垂れ流れていくエネルギーをいかに一つの方向にしていけるかということ。

そのため、最初の作業が「想像」なのです。

想像の中にある、あれも、これもを整理して、エネルギーを注ぎ込む一つの時空間を見つけ、その方向に多重に重なろうとする、あれもこれもを整理して、たった一つのことにも夢中になるために、想像の中からも整理してしまうことです。

さて、それができたら、どんな風に考えて行けばよいのでしょうか？

自分の「好き」を仕事にするときの、時間とエネルギーの使い方とは？その13

すべての道はローマにつながるという言葉がありますが、実は、あなたがどんな道を通っても、あなたが行きつく最終的な目的に、必ず到達することができるのです。

邪魔な想像を取り払って、前進して、エネルギーを時空間に注入していくと、あなたには自己信頼という大きな力が備わります。

決定できなかった自分が、周囲の動向を見て、恐る恐る動いていた自分が、いなくなります。

率先して、自分の意思で前へ進んでいける自分になります。

さて、2時間、夢中になってこれを書いてみました。

私の夢中が、あなたに伝わって、あなたを喚起できれば幸いです。

昨日書いた、もう一つの読み物と一緒に、読んでみてください。

そして、私が書いた通りにしようと等思わず、あなたらしいもっとよい方法を編み出してみてください。